

＜陸奥湾産マダラの資源変動要因を探る＞

陸奥湾はマダラの産卵場・生育場となっています。稚魚は水温が 12℃を超える 6 月頃に湾の外へ出ていき、その後、多くは北海道太平洋側へ索餌回遊し、成熟すると陸奥湾へ産卵回遊します。成熟開始年齢は雄 3 歳、雌 4 歳、寿命はおよそ 8 年です。漁獲量は中長期的に大きく変動し、寒冷期は好調、温暖期は低調となっています（図 1）。漁獲の変動要因は、産卵期の水温環境にあり、平年よりも低めの水温が好適な条件と考えられています。好適水温下では発生率・生残率が高くなり、数年後に陸奥湾へ産卵回帰するマダラが多くなると想定していますが、検証が必要です。そこで、好適水温の年に生まれたマダラが陸奥湾に多く回帰するのかを確かめるため、昨年度から漁獲されたマダラの年齢査定を開始しました（図 2）。

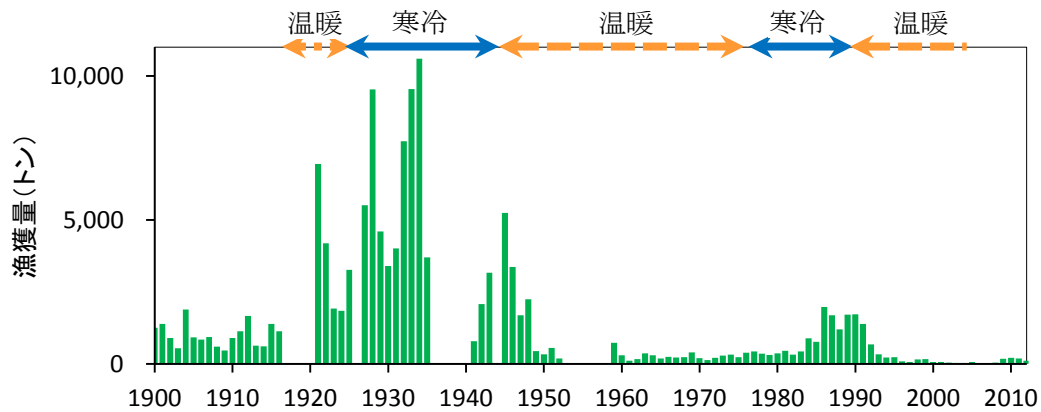


図 1 陸奥湾におけるマダラ漁獲量と温暖期・寒冷期の関係
(温暖・寒冷は見延 (2003) より引用)



図 2 マダラの年齢査定に用いた耳石
(左：耳石全体図、右：耳石の横断面図 3 歳魚の輪紋数)